

第4問

次の【問題文Ⅰ】の詩と【問題文Ⅱ】の文章は、いずれも馬車を操縦する「御術」<sup>ぎよじゆつ</sup>について書かれたものである。これらを  
読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

【問題文Ⅰ】

吾<sub>ニ</sub>有<sub>リ</sub>千里<sub>ノ</sub>馬<sub>一</sub>

毛<sub>一</sub>骨<sub>(1)</sub>何<sub>レ</sub>蕭<sub>(注2)</sub>森<sub>タル</sub>

疾<sub>ハヤク</sub>馳<sub>ハスレバ</sub>如<sub>ク</sub>奔<sub>ク</sub>風<sub>ノ</sub>

白<sub>ニ</sub>日<sub>一</sub>無<sub>シ</sub>留<sub>ムル</sub>陰<sub>ヲ</sub>

徐<sub>おもむ</sub>驅<sub>カクレバ</sub>当<sub>タリ</sub>大<sub>ニ</sub>道<sub>一</sub>

步<sub>ほ</sub>驟<sub>(注3)</sub>中<sub>ニ</sub>五<sub>ノ</sub>音<sub>一</sub>

A  
馬<sub>ニ</sub>雖<sub>モ</sub>有<sub>リト</sub>四<sub>ノ</sub>足<sub>一</sub>

遲<sub>ハ</sub>速<sub>ハ</sub>在<sub>リ</sub>吾<sub>ガ</sub> X

六<sub>リク</sub>轡<sub>ひハ</sub>応<sub>ジ</sub>吾<sub>ガ</sub>手<sub>ニ</sub>

調<sub>スル</sub>和<sub>コト</sub>如<sub>シ</sub>瑟<sub>(注6)</sub>琴<sub>ノ</sub>

東<sub>ト</sub>西<sub>ト</sub>与<sub>ニ</sub>南<sub>ノ</sub>北<sub>一</sub>

高<sub>コ</sub>下<sub>ス</sub>山<sub>ト</sub>与<sub>レ</sub>林<sub>ヲ</sub>

B  
惟<sub>レ</sub>意<sub>ト</sub>所<sub>レ</sub>欲<sub>ス</sub>適<sub>ス</sub>

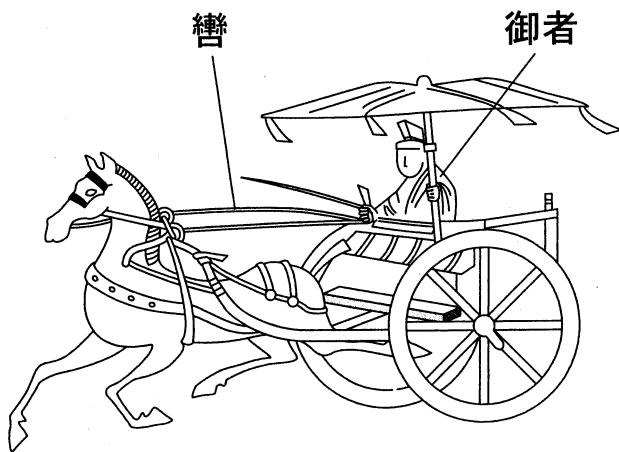
九<sub>(注7)</sub>州<sub>一</sub>可<sub>シ</sub>周<sub>(2)</sub>尋<sub>ヌ</sub>

(3)  
至<sub>レル</sub>哉<sub>ト</sub>人<sub>ト</sub>与<sub>レ</sub>馬<sub>一</sub>

兩<sub>ニ</sub>樂<sub>一</sub>不<sub>レ</sub>相<sub>シ</sub>侵<sub>サ</sub>

(注)

- 1 毛骨——馬の毛なみと骨格。
- 2 蕭森——ひきしまつて美しい。
- 3 步驟——馬が駆ける音。
- 4 五音——中国の伝統的な音階。
- 5 六轡——馬車を操る手綱。
- 6 瑟琴——大きな琴と小さな琴。



馬車を走らせる御者

伯樂(注8)識シルモニ其ノ外ヲ徒(ア)知ルニ価ノ千金ナルヲ

王良ハ得タリニ其ノ性ヲ此ノ術(イ)固ク已ニ深シ

良馬ハ須マツニ善(注9)馭ギョ吾ガ言ハ可シ為ス箴(注10)

7 九州——中国全土。

8 伯樂——良馬を見抜く名人。

9 善馭——すぐれた御者(前ページの図を参照)。

馭は御に同じ。

10 箴——いましめ。

(歐陽脩『歐陽文忠公集』による)

【問題文Ⅱ】

王良は趙国の襄主に仕える臣であり、「御術」における師でもある。ある日、襄主が王良に馬車の駆け競べを挑み、三回競走して三回とも勝てなかった。くやしがる襄主が、まだ「御術」のすべてを教えていないのではないかと詰め寄ると、王良は次のように答えた。

凡御之所貴、馬体安于車、人心調于馬、而後可以進速(c)

致遠(c)今君後則欲逮臣、先則恐逮于臣。夫誘道争遠、非先

則後也。而先後心在于臣、尚何以調于馬。此君之所以后

也。

(『韓非子』による)

問1 波線部(ア)「徒」・(イ)「固」のここでの意味と、最も近い意味を持つ漢字はどれか。次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ

一つずつ選ぶ。解答番号は

**30**

・  
**31**

(ア)

**30** 「徒」

⑤ ④ ③ ② ①  
猶 好 当 復 只

(イ)

**31** 「固」

⑤ ④ ③ ② ①  
本 絶 必 難 強

問2 波線部①「何」・②「周」・③「至哉」のここでの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

③2  
 ↓  
 ③4。

- (1) 「何」
- ③2
- ① どころ
  - ② いつから
  - ③ どのように
  - ④ どうして
  - ⑤ なんと

- (2) 「周」
- ③3
- ① 手あたり次第に
  - ② 何度も繰り返して
  - ③ あらゆるところに
  - ④ きちんと準備して
  - ⑤ はるか遠くより

- (3) 「至哉」
- ③4
- ① あのような遠くまで行くことができるものなのか
  - ② こんなにも人の気持ち可以理解できるものなのか
  - ③ あのような高い山まで登ることができるものなのか
  - ④ このような境地にまで到達できるものなのか
  - ⑤ こんなにも速く走ることができるだろうか

問3

【問題文Ⅰ】の傍線部A「馬雖有<sub>二</sub>四足<sub>一</sub>遅速在<sub>二</sub>吾<sub>一</sub>」には「御術」の要点を述べている。【問題文Ⅰ】と【問題文Ⅱ】を踏まえれば、【問題文Ⅰ】の空欄 X には【問題文Ⅱ】の二重傍線部(a)～(e)のいずれかが入る。空欄 X に入る語として

最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ① (a) 体
- ② (b) 心
- ③ (c) 進
- ④ (d) 先
- ⑤ (e) 臣

問4 傍線部B「惟意所欲適」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

36

- |   |       |  |
|---|-------|--|
| ① | 惟意所欲適 | 惟 <sup>た</sup> だ意の欲して適 <sup>かな</sup> ふ所にして               |
| ② | 惟意所欲適 | 惟 <sup>おも</sup> だ意ふ所に適 <sup>かな</sup> はんと欲して              |
| ③ | 惟意所欲適 | 惟 <sup>おも</sup> だ欲する所を意 <sup>おも</sup> ひ適 <sup>ゆ</sup> きて |
| ④ | 惟意所欲適 | 惟 <sup>おも</sup> だ意の適 <sup>ゆ</sup> かんと欲する所にして             |
| ⑤ | 惟意所欲適 | 惟 <sup>おも</sup> だ欲して適 <sup>ゆ</sup> く所を意 <sup>おも</sup> ひて |

問5 傍線部C「今君後則欲速臣、先則恐速于臣。」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ

選べ。解答番号は

37。

- ① あなたは私に後ろにつかれると馬車の操縦に集中するのに、私が前に出るとすぐにやる気を失ってしまいました。
- ② あなたは今回後れても追いつこうとしましたが、以前は私に及ばないのではないかと不安にかられるだけでした。
- ③ あなたはいつも馬車のことを後回しにして、どの馬も私の馬より劣っているのではないかと憂えるばかりでした。
- ④ あなたは後から追い抜くことを考えていましたが、私は最初から追いつかれないように気をつけていました。
- ⑤ あなたは私に後れると追いつくことだけを考え、前に出るといつ追いつかれるかと心配ばかりしていました。

問6 【問題文Ⅰ】と【問題文Ⅱ】を踏まえた「御術」と御者の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

38

- ① 「御術」においては、馬を手厚く養うだけでなく、よい馬車を選ぶことも大切である。王良のように車の手入れを入念にしなければ、馬を快適に走らせることのできる御者にはなれない。
- ② 「御術」においては、馬の心のうちをくみとり、馬車を遠くまで走らせることが大切である。王良のように馬の体調を考えながら鍛えなければ、千里の馬を育てる御者にはなれない。
- ③ 「御術」においては、すぐれた馬を選ぶだけでなく、馬と一体となって走ること大切である。襄主のように他のことに気をとられては、馬を自在に走らせる御者にはなれない。
- ④ 「御術」においては、馬を厳しく育て、巧みな駆け引きを会得することが大切である。王良のように常に勝負の場を意識しながら馬を育てなければ、競走に勝つことのできる御者にはなれない。
- ⑤ 「御術」においては、訓練場だけでなく、山と林を駆けまわって手綱さばきを磨くことも大切である。襄主のように型通りの練習をおこなうだけでは、素晴らしい御者にはなれない。